

英語の動名詞・現在分詞・形容詞の区別について

長谷川 剛

はじめに

拙論「TOEIC 問題における文法項目の説明方法について」の中で、日本で出版される TOEIC の参考書や問題集において文法項目の説明方法にばらつきや誤りがあることを指摘した。一般の出版社が出す参考書や問題集はさまざまなレベルの英語力を持った執筆者が書くので、ある程度の誤りは避けられないのかも知れない。

これに対して、TOEIC 試験を開発・制作する ETS (Educational Testing Service) が監修する公式問題集は信頼度が高い。しかし、問題自体は ETS 監修のもとに作られているが、その問題の解説はやはりさまざまなレベルの英語力を持った執筆者が書いている。

本稿では日本と韓国で出版されている公式問題集を使い、文法問題の解説において (1) 動名詞と現在分詞が正しく区別されているか、(2) 現在分詞・過去分詞と形容詞が正しく区別されているかを見る。この検証の過程で、英語の動名詞・現在分詞・形容詞の区別が明らかになると思う。

1. 動名詞と現在分詞の区別

日本で TOEIC を実施する「国際ビジネスコミュニケーション協会」が発行する『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 7』の Test 1, No. 107 に次のような問題がある。

The firm's ----- strategy is quite different from that of its competitors.

この空欄に対して (A) hired, (B) to hire, (C) hires, (D) hiring の選択肢がある。そして別冊『解答・解説』はこの問題を次のように解説している。

選択肢は全て動詞 hire 「～を雇う」の変化した形。文の述語動詞は is, 主語は The firm's ----- strategy で, firm's は所有格だと判断できる。空所には後ろの strategy と共に名詞句を作り, The firm's に修飾される語が入る。現在分詞の (D) hiring を入れると, 「その会社の採用戦略」となり文意が通る。

この解説は (D) hiring を「現在分詞」であると断定している。しかし、これは本当に正しいのだろうか。動詞の ing 形には現在分詞と動名詞がある。名詞の前にくる動詞の ing 形はどのように見分けたらいいのだろうか。例えば、次の例を見よう。

a dancing girl

これだけ見ても、dancing が現在分詞なのか動名詞なのか分からない。しかし、この表現は 2 通りの発音が可能で、dancing に強勢を置いて発音した場合は「プロのダンサー」の意味で、この

dancing は動名詞になり、dancing と girl の両方に強勢を置いて発音した場合は「今踊っている少女」の意味で、この dancing は現在分詞になる。次のように言い換えると違いが明確になる。

[1] a dancing girl (a girl whose profession is dancing)

[2] a dancing girl (a girl who is dancing right now)

[1] の下線部 dancing が動名詞であり、[2] の下線部 dancing が現在分詞であることは明らかである。さらに、次の例を見てみよう。

a dancing school (a school which teaches dancing)

a sleeping lion (a lion that is sleeping right now)

これらの例から、動名詞は修飾する名詞の目的や用途（ダンスを教えるための学校）を表し、現在分詞は修飾する名詞の動作や状態（今眠っているライオン）を表すと言える。そして次のようにまとめることができる。

[動名詞][名詞] (名詞は無生物が多い)

a dining room, a sewing machine, a sleeping bag

[現在分詞][名詞] (名詞は生物が多い)

a dancing girl, a sleeping lion, a crying baby

[現在分詞][名詞] でありながら [名詞] が無生物なものとして、例えば、an approaching train, a falling leaf, a setting sun などがある。さらに、人の集まりを組織（無生物）と見るか、集団（生物）と見るかで解釈が分かれるものもある⁽¹⁾。

a hiring committee (a committee which is in charge of hiring)

a hiring company (a company which is now hiring)

ここで最初の問題に戻ることにする。

[1] a hiring strategy (a strategy which is used for hiring)

*[2] a hiring strategy (a strategy which is now hiring)

無生物である「戦略」が「雇用」という動作を行うとは考えられないので、[2] の解釈はありえない。つまり、この hiring は「現在分詞」ではない。[1] のように、「雇用」に用いられる「戦略」という意味であり、この hiring は「動名詞」である。

それでは次に韓国の公式問題集を見てみよう。YBM Korea TOEIC Commission が発行する『토익 정기시험 기출문제집』(TOEIC 定期試験既出問題集) Test 6, No. 106 には次のような問題がある。

Mr. Winkel's ----- responsibilities include auditing and financial review of large clients.

この空欄に対して (A) accounts, (B) accounted, (C) accounting, (D) accountable の選択肢がある。そして別冊『정답 및 해설』(正解と解説) はこの問題を次のように解説している。

빈칸에는 뒤에 오는 responsibilities 를 수식하는 형용사나 responsibilities 와 복합명사를 이루는 명사가 들어갈 수 있다. " 윈켈 씨의 ----- 책무에는 회계 감사 (auditing) 와 재무 검토 (financial review) 가 포함된다 " 라는 내용의 문장이므로,

빈칸에는 "회계"를 의미하는 명사가 들어가야 자연스럽다. 따라서 (C) accounting 이 정답이다. 명사인 (A) accounts 는 "계정, 계좌", 과거분사인 (B) accounted 는 "간주되는", 형용사인 (D) accountable 은 "책임이있는"이라는 뜻으로 문맥상 빈칸에 부적절하다. 참고로, accounting 은 종종 다른 명사와 함께 복합명사를 이룬다.

これを日本語に翻訳すると次のようになる。

空欄には次の responsibilities を修飾する形容詞や responsibilities と複合名詞をつくる名詞が入る。「Winkel 氏の ----- 責務には会計監査 (auditing) と財務検討 (financial review) が含まれている」という内容の文なので, 空欄には「会計」を意味する名詞が入ると自然だ。したがって (C) accounting が正解である。名詞である (A) accounts は「アカウント, 口座」, 過去分詞の (B) accounted は「みなされる」, 形容詞である (D) accountable は「責任がある」という意味で文脈上空欄に不適切である。ちなみに, accounting は, しばしば, 他の名詞と一緒に複合名詞をつくる。

この解説では, 動名詞という言葉を使わずに, 最初から accounting を「名詞」とみなし, accounting responsibilities で [名詞][名詞]の複合語とみなしている。最初から, accounted (過去分詞) と accounting (現在分詞) の区別など気にせずに, accounting を名詞とみなすことができたのは, accounting には「会計, 経理」という意味だけでなく, 「会計学」という意味があり, 名詞として確立していることが理由だと考えられる。これに対して, 最初の問題の hiring は accounting ほど名詞として確立していない⁽²⁾。

2. 現在分詞と形容詞の区別

それでは別の韓国の公式問題集を見てみよう。『토익 정기시험 기출문제집 2』(TOEIC 定期試験 既出問題集 2) Test 7, No. 114 には次のような問題がある。

At the panel discussion, Ms. Yang made a ----- argument for environmentally responsible business practices.

この空欄に対して (A) convince, (B) convincing, (C) convinced, (D) convincingly の選択肢がある。そして別冊『정답 및 해설』(正解と解説)はこの問題を次のように解説している。

빈칸은 부정관사 a 와 명사 argument 사이에서 argument 를 수식하는 형용사 자리이다. 따라서 형용사와 같은 역할을 하는 현재분사 (B) convincing (설득력 있는) 과 과거분사 (C) convinced (확신하는, 납득하는) 중 하나를 선택해야 한다. 주장 (argument) 은 확신을 주는 주제이므로, 능동의 의미를 내포한 현재분사 (B) convincing (설득력 있는) 이 정답이다. (A) convince (설득하다) 는 동사, (D) convincingly (납득이 가도록) 는 부사로 품사상 빈칸에 들어갈 수 없다.

これを日本語に翻訳すると次のようになる。

空欄は不定冠詞 a と名詞 argument の間で argument を修飾する形容詞の位置になる。したがって形容詞のような役割をする現在分詞 (B) convincing (説得力のある) と過去分詞 (C) convinced (確信した, 納得した) のいずれかを

選択しなければならない。主張 (argument) は確信をあたえる主体であるから、能動の意味を内包した現在分詞 (B) convincing (説得力のある) が正解である。(A) convince (説得する) は動詞、(D) convincingly (納得がいくように) は副詞で品詞上空欄に入ることはできない。

この説明の中で解説者は「**形容詞**のような役割をする**現在分詞** convincing と**過去分詞** convinced のいずれかを選択しなければならない」と述べている。確かに、語形を見ると convincing は現在分詞で convinced は過去分詞である。しかし、英語の辞書を見ると ing や ed の語尾をしていながら、形容詞として別の見出しに掲載されているものもある。それでは「形容詞的に用いる分詞」と「完全に形容詞になったもの」の違いは何なのか。

[1] A lion was sleeping.

[2] I saw a sleeping lion.

[3] His speech was convincing.

[4] He made a convincing speech.

[1] は進行形の文なので、sleeping は現在分詞である。[2] は名詞 lion の前で現在分詞が形容詞的に用いられている。しかし、[3] と [4] の convincing は現在分詞ではなく「完全な形容詞」であると判断できる。なぜそう判断できるのか。まず、「形容詞的に用いる分詞」と「完全に形容詞になったもの」の違いの一つとして、分詞は very で修飾できないが、形容詞は very で修飾できることがある。

*[1] A lion was **very** sleeping.

*[2] I saw a **very** sleeping lion.

[3] His speech was **very** convincing.

[4] He made a **very** convincing speech.

また、現在分詞を使った進行形の文は was を seemed に代えることはできないが、形容詞の場合は、was を seemed に代えることができる。(ただし、[1] は A lion seemed to be sleeping. と言うことはできる。)

*[1] A lion **seemed** sleeping.

[3] His speech **seemed** convincing.

さらに、[1] が現在分詞を使った進行形の文であるの対して、[3] が進行形の文ではなく、convincing が形容詞であることは、動詞 convince は他動詞用法しかなく、進行形にすると目的語が必要になることで分かる。

[1] A lion was sleeping.

[3] His speech was convincing.

cf. His speech was convincing **the audience**.

このように他動詞用法しかない動詞が目的語なしで使われている場合は、その ing 形は現在分詞ではなく形容詞であると判断できる。また、形容詞的に用いる現在分詞が一時的な動作の意味を持つのに対して、これらの完全に形容詞になったものは永続的な性質の意味を持っている。下は、他動詞用法しかない動詞が ing 形になり、形容詞になった例である。

The lesson was really interesting. [PEU]

The instructions are very confusing.

That 72% figure is pretty surprising!

The game was extremely exciting.

他動詞用法に加えて自動詞用法もある動詞の場合は、現在分詞を使った進行形の文なのか、それ

とも形容詞を使った文なのかで、解釈が分かれることもある。次の文は進行形に解釈すれば、「彼女は今計算しているので、邪魔するな」という意味になるし、形容詞に解釈すれば、「彼女は打算的、利己的なので、近づくな」という意味にもなる。

She is calculating! [CGEL]

これまで現在分詞だけ見てきたが、過去分詞の例も見てみよう。まず、過去分詞は [2] と [4] のような受身形の文で使われる。このとき by 動作主があるので、受身の動作が明確になっている。

[1] The earthquake destroyed his house.

[2] His house was destroyed by the earthquake.

[3] His speech convinced the audience.

[4] The audience was convinced by his speech.

しかし、by 動作主がないときは、一時的な動作を示すのではなく、形容詞の持つ永続的な意味が出てくる。次の例では、「説得される」という動作ではなく、「確信している、納得している」という状態を示しているので、形容詞と判断できる。また、very を追加して強調することもできる。

I am convinced of her innocence. [OALD]

Sam nodded but he didn't look convinced. [OALD]

また、限定用法で用いたときは、もともとの動詞の意味「説得する」から離れて、「信心深い、熱心な」という意味になる。つまり、一時的な動作ではなく、変わらない本質的な特徴を示しているので、これも形容詞と判断できる⁽³⁾。

I am a convinced Christian. [OALD]

それでは「形容詞的に用いる分詞」と「完全に形容詞になったもの」の違いをまとめてみよう。まず、[2] のような dancing は、[1] の進行形の文にある「踊る」という動作が感じられるので、名詞の前で形容詞的に用いる現在分詞であると判断できる。

[1] A girl was dancing.

[2] I saw a dancing girl.

次の [5] にある damaged も元の動詞の「壊す」「壊される」といった動作の意味を保持しているので、これも名詞の前で形容詞的に用いる過去分詞であると判断できる。

[3] A man was damaging a car.

[4] A car was damaged by a man.

[5] I saw a damaged car.

これに対して、次の [1] のように他動詞 convince が目的語なしで使われている場合は、現在分詞を使った進行形ではなく、形容詞を使った文だと分かる。(進行形ならば目的語が必要。) さらに、進行形ではないので、一時的な動作「説得する」という意味を表すのではなく、永続的な特徴「説得力のある」という意味を表す。これは [2] のように限定用法で用いた場合も同じである。また、形容詞なので very を加えて意味を強調することもできる。

[1] His speech was convincing.

[2] He made a convincing speech.

さらに受身形の場合は, by 動作主がある文であれば動作の意味が感じられるが, そうでない [3] のような文は, 一時的な動作の意味「説得される」という意味ではなく, 永続的な性質「納得している, 確信している」という意味になるので, 形容詞であると判断できる。さらに, [4] のように限定用法で用いた場合は, 「信心深い, 熱心な」という永続的な特徴の意味が強くなる。また, 形容詞なので very を加えて意味を強調することもできる⁽⁴⁾。

[3] I am convinced of his success.

[4] I am a convinced Buddhist.

最終的に, この節の冒頭で取り上げた韓国の公式問題の解説は, 「現在分詞」「過去分詞」という用語を使わずに, 「形容詞」convincing, convinced の意味の違いで正解を導くべきだと言える。また, convinced が限定用法で使われた場合, 次にくる名詞は人間しかないことにも注意を払う必要があると思う。

Ms. Yang made a ----- argument.

[1] convincing (説得力のある [人・物])

[2] convinced (信心深い [人])

おわりに

本稿では日本と韓国で出版されている公式問題集を使い, 文法問題の解説において動名詞・現在分詞・形容詞の区別が正しくされているか検証した。まず, 日本の公式問題集の中に動名詞と現在分詞を正しく区別できていない事例を見た。次に, 韓国の公式問題集の中に現在分詞・過去分詞と形容詞の違いが明確にされていない事例を見た。最初に述べたように, ETS が問題作成を監修する

TOEIC 公式問題集は受験者から信頼されている。問題だけでなく解説も信頼できるものにして欲しい。

注

- (1) 人の集まりを組織（無生物）と見ると, consulting firm は [動名詞] [名詞] の形で, 「コンサルティング業の会社」になる。これに対して, consulting lawyer は人間（生物）であるから, [現在分詞] [名詞] の形で, 「今コンサルティングしている弁護士」という意味になりそうだが, 実際はそうでない。今一時的にその動作を行っているのなら「現在分詞」になるが, この consulting は「専門的な助言を与える相談役の」という永続的な特徴を意味しているので, これは「形容詞」である。現在分詞と形容詞の区別は次節で扱う。

This is a consulting firm.

He is a consulting lawyer.

- (2) 英語学習用の英和中辞典には hiring を別見出しで名詞として掲載しているものはない。例えば, 『ジーニアス英和辞典』, 『プログレッシブ英和中辞典』など。ただし, 大型の英和辞典は hiring を別見出しで名詞として掲載している。例えば, 『研究社新英和大辞典』, 『ランダムハウス英和大辞典』など。これに対して, どの英和辞典でも accounting を別見出しで名詞として掲載している。また, 動名詞が完全な名詞になると, 不定冠詞の a (an) が付くものや, 複数形になり s が付くものもある。(例) beginning, belonging, blessing, building, calling, clipping, covering, cutting, doing, drawing, dressing, earning, ending, failing, feeling, finding, following, gathering, going, greeting, happening, heading, hearing, killing, landing, liking, living, longing, making, marking, meaning, meeting, offering, opening, painting, placing, ranking, rating, reading, recording, ruling, saving, saying, setting, showing, sighting, surrounding, tasting, teaching, trimming, understanding, undertaking, uprising, viewing, wedding, working, writing, etc.

- (3) ここで述べた一時的な動作の意味と永続的な特徴の意味の違いが現在分詞と形容詞の区別にも役立つ。次の文で ing 形は, 一時的な動作の意味がある「現在分詞」ではなく, 永続的な特徴を示す「形容詞」である。

He is a working man. (肉体労働者)

I have a winning team. (強いチーム)

I saw a reading family. (読書好きの家族)

He is an acting professor. (教授代理)

- (4) convincing と convinced にはそれぞれ unconvincing と unconvinced という否定形がある。これらの否定形には動作の意味はなく、形容詞の持つ永続的な特徴の意味が明確である。

参考文献

- 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2020) 『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 7』 IIBC.
- 小西友七他 [編] (1994) 『小学館ランダムハウス英和大辞典』 (第2版) 小学館.
- 瀬戸賢一・投野由紀夫 [編] (2012) 『プログレッシブ英和中辞典』 (第5版) 小学館.
- 竹林滋 [編] (2002) 『研究社新英和大辞典』 (第6版) 研究社.
- 長谷川剛 (2016) 「TOEIC 問題における文法項目の説明方法について」 明治学院大学教養教育センター 紀要『カルチュラル』 Vol. 10, No. 1, pp. 37-45.
- 南出康世 [編] (2014) 『ジーニアス英和辞典』 (第5版) 大修館書店.
- Lea, Diana et al. (2020) *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*, [OALD] Tenth Edition, Oxford.
- Quirk, Randolph et al. (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*, [CGEL] Longman.
- Swan, Michael (2016) *Practical English Usage*, [PEU] Fully Revised Fourth Edition, Oxford.
- YBM Korea TOEIC Commission (2018) 『토익 정기 시험 기출문제집』 (TOEIC 定期試験 既出問題集) YBM.
- YBM Korea TOEIC Commission (2019) 『토익 정기 시험 기출문제집 2』 (TOEIC 定期試験 既出問題集 2) YBM.